

解 答	1 (B)	2 (D)	3 (C)	4 (A)	5 (C)	6 (A)
	7 (D)	8 (B)	9 (B)	10 (B)	11 (D)	12 (A)
	13 (B)	14 (B)	15 (A)	16 (C)	17 (B)	18 (B)
	19 (D)	20 (C)				

1. 「ロバートはどこにも鍵が見つからなかったので、探すことを諦めました」

【動詞の形】パターン

▶ 選択肢には動詞lookの様々な形が並んでいます。本問では空欄前の句動詞gave upが動名詞だけを目的語に取ることから、(B)lookingが正解になります。

【例】Robert **gave up smoking** [<sup>x</sup>to smoke].

(ロバートは煙草を吸うのをやめた)

2. 「最近、私はいつも以上に疲労が溜まっているので、主治医はもう少し休息を取るよう提案しました」 【動詞の形】パターン

▶ 1問目に続いて動詞の形パターンです。本問では空欄前の他動詞suggestが動名詞だけを目的語にとることから、(D)gettingが正解になります。

□ **suggest doing to A** 「A(人)に～することを提案する」

My father **suggested going** for a walk **to me** [<sup>x</sup>suggested me to go for a walk].

(父は私に散歩に行こうと言った)

3. 「今夜じゅうぶんに睡眠をとれなければ、明日の朝、私たちと山登りに行くのにじゅうぶん元気が出ないでしょう」 【前置詞vs接続詞vs副詞】パターン

▶ 選択肢の品詞は、(A)Except→接続詞、(B)Without→前置詞、(C)Unless→接続詞、(D)Besides→前置詞で、副詞はありませんが前置詞vs接続詞vs副詞のパターンです。空欄に入る語はSVを含む節を後続の節につないでいるので接続詞が入ります。文法的に正しい選択肢(A)、(C)のうち、文意より(C)Unlessが正解になります。

□ **unless** ~ 「～でない限り(=except that ~)/もし～でなければ(=if ... not)」

**Unless** something unexpected happens, we'll take the first train tomorrow.

(突発的なことでも起きない限り、明日の始発列車に乗ります)

4. 「スーズンは誰を市長に投票するかについて決めかねています」 【前置詞】パターン

▶ 選択肢がすべて前置詞のパターンです。この場合はまず、空欄前後に特定の前置詞を用いる言い回しがどうかを探します。空欄前のundecidedは形容詞で、be undecided **about** ~で「～について迷っている」という意味です。文意も合うので正解は(A)aboutになります。

□ **be undecided about A** 「(人が)Aについて決めかねている」

I'm **undecided about** my plan. (自分の計画について腹が決まっていない)

5. 「ジョンは昨年、奥さんと一緒にシンガポールへ行きましたよね」 【主述の一致】パターン

▶ 本問は付加疑問文の問題です。カンマより前にある肯定文の主語がJohn、動詞がwentと一般動詞の過去形なので、付加疑問は否定となりdidn't he?となります。よって正解は(C)didn't heです。

6. 「ケンタは学生の頃、大学へ10キロの道のりを自転車に乗って通ったものです」

【助動詞】パターン

▶ 選択肢がすべて助動詞のパターンです。when以下の副詞節で過去のことだとわかるので、「よく～したものだ」という過去の習慣を表す(A)wouldが最適です。(C)might、(D)shouldはそれぞれmay/shallの過去形ですが、**S might [should] do**の形では「～かもしれない[might]/～のはずだ[should]」という現在時の可能性や推量を表すので過去を表すことはできません。

□ **S would do** 「(よく)～したものだ」〔過去の不規則な習慣〕

▶ しばしば後にoften/sometimes/now and thenなどの副詞(句)を伴って、過去によく行われた習慣的な動作を表します。

He **would often** go fishing in the river when he was a child.

(子供のころ彼はよく川へ釣りに行ったものです)

7. 「もしブラッドが家の明かりを点けたままであることに気づいていたら、それらを消しに彼はもっと早く帰っていただろうに」【**時制**】パターン

- ▶ 選択肢には動詞returnの様々な時制が並んでいます。(A)had returnedは過去完了形、(B)would returnは現在の推量、(C)returnedは過去形、(D)would have returnedは過去の推量または仮定法過去完了の帰結節の形です。
- ▶ Had Brad...で始まる前半は過去完了の疑問文の形ですが、疑問符(?)がないことから、ifを省略した仮定法過去完了の条件節だと判断できます。ここから、空欄には仮定法過去完了の主節の形である(D)would have returnedが入ります。

8. 「もし水がなかったら、人類は生き残ることはできないでしょう」【**前置詞**】パターン

- ▶ (A)anyだけが形容詞ですが、残る3つが前置詞ですので前置詞パターンの要領で解くことを考えます。本問でポイントとなるのは空欄前のif it were notです。ここから仮定法過去を用いた慣用表現を思い出せば簡単です。正解は(B)forです。  
 if it were not for ~ 「もし～がなければ(現在の事実に反する仮定)」

*If it were not for music, life would be boring.*

(もし音楽がなかったら、人生は退屈だろう)

9. 「どんなに一生懸命に試みても、ダンスの先生は私の演技に決して満足してくれません」

【**前置詞vs接続詞vs副詞**】パターン

- ▶ 選択肢の品詞を調べると「前置詞vs接続詞vs副詞」のパターンに分類されますが、この問題では注意が必要です。本問では空欄後の語順に気づけるかがポイントになります。

( ) how **hard** I **try**, ... ⇒ 倒置が起きている  
副詞 主語 動詞

主語の前に副詞hardがあり倒置が起きていることに気づけたでしょうか？選択肢のうち、このような語法をもつものは(B)No matterのみです。後半の節とも文意が合うので、これが正解になります。通常、副詞は節をつなぐ機能を持ちませんが、no matter how(=however)は接続副詞と呼ばれ、譲歩の副詞節を導きます。

- no matter how + 形容詞 [副詞] 「どんなに～でも」 (=however + 形容詞 [副詞])

*No matter how fast I walked, I couldn't catch up with him.*

(どんなに早く歩いても、彼には追いつけなかった)

- if only + 仮定法! 「～ならよいに[よかったのに](と思う)」

- ▶ if節だけで独立的に用いられることが多く、現在の事実と反対の『願望』を表します。

*If only it would stop raining!* (雨さえ止めばいいのになあ)

10. 「僕が運転試験に合格したなんて信じられない。上出来過ぎて真実とは思えないよ」

【**構文**】パターン

- ▶ 選択肢はすべて副詞で空欄後のgoodを修飾しています。どれを選んでも意味は通じそうですが、本問でのポイントはgoodに続くto不定詞で、いわゆる「too...to do 構文」の形になっています。これに気づけば簡単で、正解は(B)tooです。

- too ... to do 「とても…なので～できない/～するには…すぎる」

*This coffee is too hot for me to drink.*

(このコーヒーは熱すぎて私には飲めない)

- ▶ for meはto drinkの意味上の主語を表します。

11. 「自動車の調子が悪いので、自動車販売店にもって行って、修理費用の見積もりをもらおうつもりです」

【**文脈(名詞)**】パターン

- ▶ 選択肢はすべて名詞です。それぞれに不定冠詞a/anがついているので「可算/不可算名詞の区別かな？」と思うかもしれませんが、文脈で解くことができます。選択肢の意味は(A)judgment「判断」、(B)evaluation「評価」、(C)measurement「測

定」、(D)estimate「見積もり」という意味です。空欄後のthe cost to fix it「それ(=自動車)を修理するための費用」から、(D)estimateが相応しいでしょう。

12. 「スコットはパイの最後の一切れを食べたい衝動をこらえた」【文脈(動詞)】パターン

▶ 空欄後にthe urge「衝動」という目的語があるので、まずは他動詞/自動詞で選択肢の分類を試みます。結果、すべてが他動詞なので文意から最適なものを選びます。実際に当てはめてみると、

「スコットはパイの最後の一切れを食べたい衝動を(に) [(A)resisted「こらえた」 (B)challenged「挑んだ」 (C)held「持った」 (D)ended「終わらせた」]

となります。よって正解は(A)resistedになります。

□ the [an] urge to do 「～したいという衝動」

I have a sudden *urge to go* abroad.

(私は突然外国に行きたいという衝動に駆られる)

13. 「当店会員であるお客様のみ、ここで商品をご購入いただけます」【語法(動詞)】パターン

▶ 問題文が受動態なので、まずは選択肢から自動詞の用法しか持たないものを除外することを考えます。しかし、第12問に続いて本問もすべての選択肢が他動詞の用法を持ちます。そこで前問同様、文意に合うものを選ぶとすると、

「商品を購入する(A)granted「ことを認められる」 (B)entitled「権利を与えられる」 (C)offered「ことを提供される」 (D)considered「とみなされる」]

となり、迷ってしまいます。受動態で悩んだら、能動態に直して考えてみましょう。すると、空欄に入るべき動詞は「( )+A(人)+to do」の語法を持つ他動詞であることが分かります。このような語法をもつのは、(B)entitledのみなので、これが正解になります。

□ be entitled to do 「～する資格[権利]が与えられている」

They *are entitled to enter* the laboratory.

(彼らには研究所に入る権利が与えられている)

14. 「コーチは自分の野球チームの戦いぶりにまったく満足していなかった」

【文脈(副詞)】パターン

▶ 選択肢はすべて副詞句です。by no means=not...by any meansで「決して～しない、まったく～でない」という強い否定表現です。本問は文脈から解いて(B)by no meansが正解になります。

□ by no means 「(どんな手段によっても)決して～でない」

This is *by no means* easy. (=This is *not by any means* easy.)

(これは決してやさしくはない)

□ by any means 「[肯定文で]いかなる手段を用いても」

They are forced to cut staff *by any means*.

(彼らはいかなる手段を用いても社員を削減せざるを得ない)

15. 「政府の新たな政策の下では、現在、両親は新生児の面倒をみるために3か月まで休暇を取得できます」【句動詞】パターン

▶ 選択肢は「基本動詞+off」の形をした句(群)動詞です。このパターンは選択肢ごとの意味が全く異なるので、文意から最適なものを選びます。

選択肢は(A)take off「休暇をとる」、(B)leave off「止める、～を脱ぐ」、(C)make off「急いで逃げる」、(D)stay off ~「～から離れている」という意味です。to care for new-born babies(新生児の世話をするために)から(A)take offが最適でしょう。

16. 「空港の保安担当者は、私たちの鞆を全て調べる際、とても徹底していました」

【語法(形容詞)】パターン

▶ 『空港の荷物検査』という状況を考えると、すべての選択肢が当てはまるような気がします。本問でポイントとなるのは、the security guard(警備員)という『人』の性質や様態を表す叙述用法の形容詞を選ぶということです。

選択肢の中で、そのような語法をもつのは(C)thorough(「(人が)几帳面な/細部ま

で丁寧な」)のみなので、これが正解になります。

【例】The editor is *thorough* and fair.

(その編集長は几帳面で公平である)

17. 「ユウコ、今あなたに話したことを誰にも口外しないでね。そのことは他の誰にも知られたくないの」 【他動詞vs自動詞】 【語法(動詞)】 混合パターン

▶ 選択肢には『話すこと』に関する動詞が4つ並んでいます。空欄後に関係代名詞 *what* の導く名詞節があることから、これが目的語と考えられます。よって、まずは選択肢の中から自動詞である(C) *speak* と(D) *talk* を除外します。ここからは文脈に合う方を選ぶこともできるのですが、語法で考えてみましょう。問題文の構文から、空欄に入るべき語は「( ) + A(物・事) + to B(人)」の語法をもつことが分かります。このような語法をもつのは(B) *repeat* で、これが正解になります。

**repeat A to B** 「A(物・事)をB(人)に知らせる、口外する」

**discuss A with B** 「A(物・事)をB(人)と話し合う、討論する」

18. 「マックスはまだパーティに来ていませんが、ゆくゆくは姿を見せるでしょう」

【句動詞】パターン

▶ *turn* を含む句動詞は南山英語で頻出です。句動詞パターンの問題は、文脈で解くのが定石です。本問ではパーティの出席に関する話題ですから(B) **turn up** 「(不意に)現れる、出席する」が最適でしょう。その他の選択肢は(A) **turn in** 「(他)～を提出する/(自)内側に曲がる」、(C) **turn around** 「ぐるりと向きを変える」、(D) **turn over** 「～をひっくり返す」という意味です。

19. 「ビルは部長に電子メールを書き、クリスマスに休暇を取りたいと申し出た」

【他動詞vs自動詞】パターン

▶ 選択肢はすべて動詞で『依頼・要求』に関する語が並んでいます。似たような意味の語が多いので、日本語で考え始めると迷ってしまう出題パターンです。本問では空欄後の *for* が手がかりになります。動詞の直後に目的語がないことから、他動詞である(B) *questioned* と(C) *requested* を除外します。残る2つのうち、*for* につながる語法をもつのは(D) *asked* で、「クリスマスに休暇を願い出る」という意味になることから、こちらが正解になります。

**ask for** 「～を求める/～をくれと頼む」 (=request/demand)

Don't be afraid of *asking for* help when it is needed.

(助けが必要な時は、助けを求めることを恐れるな)

20. 「ボブは委員会の報告で間違いをしたことに気がついた。それで彼は誤りについて謝罪した」 【他動詞vs自動詞】パターン

▶ 本問も空欄後の *for* より自動詞を選べば良いと分かります。そこでまず、他動詞である(C) *regret* (～を後悔する) と(D) *excuse* (～を許す、免除する) を除きます。残る2つのうち(A) *admit* (認める) は意味として文脈上通じますが、自動詞として用いる場合「*admit to* [of] A」の形で使われるので不適です。結果、*apologize for* で「～のことを謝罪する」という意味になる(C) *apologized* が正解になります。

**apologize (to A) for B** 「(Aに)Bのことを謝る」

I really must *apologize* to him *for* the delay.

(彼に遅刻したことを本当にお詫びしなければならない)

他動詞と間違えやすい自動詞

**apologize (to A) for B** 「(Aに)Bのことを謝る」

**complain (to A) of** [about] B 「(Aに)Bについて不平を言う」

**graduate from** 「～を卒業する」

**hope for** 「～を望む」

**object to** 「～に反対する」

**participate in** 「～に参加する」

**argue with A about** [over] B 「BについてAと口論する」